

建設部会活動 報告書

中国本部建設部会

事業名称	公益社団法人日本技術士会 中国本部 建設部会 2025 年度 建設部会 第 2 回講演会		
実施時期	2025 年 11 月 29 日 (土) 13:00~16:20		
実施場所	広島会場での集合形式と中国本部会議室から Teams を使った WEB 配信 (WEB 個人視聴) のハイブリッド方式で実施		
参加人数	102 名 (広島 26 名、WEB 個人視聴 76 名)	CPD	3 時間 0 分
事業内容 と感想	<p>中国本部建設部会の 2025 年度第 2 回講演会を以下のとおり実施した。</p> <p>【テーマ】地域発！カーボンニュートラル最前線 —行政・地域・企業が描くゼロカーボンの未来—</p> <p>【目的】2050 年カーボンニュートラル実現に向けて、国や自治体、企業、地域社会が連携した取組みが全国で加速している。特に中国地方では、行政による環境施策の推進、地域資源を活かしたエネルギー循環、そして電力事業者による再生可能エネルギー拡大など、多様な主体が一体となった挑戦が進められている。本講演会では、広島県・真庭市・中国電力の最前線の取組みを通じて、持続可能な未来をどう描くか、技術者として、また地域の担い手として果たすべき役割について考えるヒントが得られる機会となることを期待している。</p> <p>【講演内容】</p> <p>開会挨拶：13:00~13:05</p> <p>講演 1：13:05~14:05 演題「カーボンニュートラルに関する政策の動向と地域の取組について」 講師：広島県環境県民局環境担当部長 岡田 誠司 氏 講演概要：カーボンニュートラルの実現に向けて、「攻め」と「守り」の視点をもった政策の動向や、広島県を中心とした地域の特徴的な取組を紹介された。</p> <p>講演 2：14:05~15:05 演題「森林資源を活用した循環型・ゼロカーボンシティの取り組み」 講師：真庭市産業観光部 地域エネルギー政策課課長 杉本 隆弘 氏 講演概要：「カーボンニュートラル・脱炭素化」を単なる環境目標にとどめず、地域振興・地域活性化の起点と捉えてさまざまな施策を展開している事例を紹介された。</p> <p>講演 3：15:15~16:15 演題「中国地域の電気事業における 2050 年 CN 実現に向けた取り組み」 講師：中国電力(株) 電源事業本部 電源土木総括グループ マネージャー 伊藤 友司 氏 講演概要：2050 年のカーボンニュートラル実現に向けた、原子力発電・水力発電の最大限の活用、火力発電の脱炭素化、洋上風力発電・系統用蓄電池等の新技術の導入検討状況等について紹介された。</p> <p>開会挨拶：16:15~16:20</p>		



岡田氏



杉本氏 (WEB)



伊藤氏



広島会場での講演会の様子

【参加者状況】申込者：104名（会員84名、非会員20名）

参加者：102名（広島会場26名、WEB76名（内42名中国地域外））

アンケート：67名（中国本部会員41名、他本部会員20名、非会員6名）

意見交換会：15名（会員11名、非会員2名、講師2名）

【評価】

- ① 講演時間も概ねスケジュール通りに進み、活発な質疑が行われた。また、講演会後の意見交換会にも多数参加していただき、会員相互また講師との情報交換が盛んに行われた。
- ② 統括本部HPと中国本部申込URLからの参加受付を行ったことにより、参加者の集計・整理、その後のメール配信等も効率的に行うことができた。
- ③ WEB配信に当たっては、問合せや講演時の音声や画像のトラブルもなく、順調に配信が行えた。
- ④ 今回のテーマは、全国的にも知られた事例を紹介できたことから、中国地域外から多くの聴講があった。また、対面参加が広島会場のみであったため、鳥取県や岡山県から広島会場に参加された方もいた。
- ⑤ アンケートで満足およびやや満足と回答された方は94%で、大半が好意的な意見であった。ただし、一人の方の質問時間が長かったことや、質問時間に対する複数のコメントがあった。

【課題】

- ① 講演2の杉本氏はWEB配信であったが、WEB配信との事前告知がなかったため、杉本氏に直接話しをするために広島会場に来場したという方が数名いらっしゃった。WEB配信との告知を案内書に記入すべきであった。
- ② 質問はひとり一問とするなど、質問の仕方や時間配分に配慮が必要であった。
- ③ 参加費が安くなる割引券について、間違った申し込みを行った参加者が何名かいました。何が該当するのかが不明瞭であり、具体的に何が該当するのかを案内書に明示するとともに、内容の共有を図る必要があると感じた。
- ④ WEB聴講者で割引券を利用する方について、中国本部参加申込URLから申し込む際は自己申告であることから、どの割引券に該当するのか、また協賛企業へ配布した枚数の確認や、合格者や年間パスポート利用者、会誌購読者かどうかなどを十分にチェックできなかった。チェックの手間をなくすような申込方法とならないか検討する必要を感じた。
- ⑤ 本講演会は最終的に102名の参加があったが、開催2週間前まで70名程度に留まっていた。そのため動員を掛けようとしたが、休日であり難しかった。これまで休日開催を行ってきたが、ウィークデーの開催についても検討する必要を感じた。

以上